

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行・編集：仙台教区サポートセンター
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
仙台教区サポートセンター
Tel.022-797-6643 Fax022-797-6648
支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン
※通信欄に「東日本大震災」とご明記ください。

2020年4月16日、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言の出される前から、カリタスの各ベースでは、県外から助けてくださるボランティアの方々、また、毎日接している被災者の方々の年齢も考慮し、活動の変更や制限を余儀なくされながらも、今できることは何かを模索しつつ、活動を続けてきました。3か月たってやっと、少しずつ元通りの活動を開始しました。前号の発行からしばらく時間がたってしまいましたが、今回は、カリタス大船渡ベース、カリタス南三陸、そしてカリタス石巻ベースの様子をご紹介します。それぞれのベースが、スタッフのみで知恵をしぼって、被災者の方々の思い活動してきた、その様子をお知らせいたします。

コロナ禍の中で

カリタス大船渡ベース 菅原 圭一

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、カリタス大船渡ベースでは3月からボランティアの受け入れを中止し、それまでベースと災害公営住宅で行ってきた全てのサロン活動、イベント、そして買物送迎の活動を中止しました。そしてスタッフだけでできる活動を考えました。初めは在宅訪問の活動を続けていましたが、訪問するとしても密になってしまうので、玄関先での安否確認にとどめることにしました。感染者数が増えるにつれ、人の行き来を気になさる方々に配慮して、玄関先訪問もやめることにしました。訪問できないなら電話をかけよう、ということになりました。

ふだん、サロンに参加なさっている方々、在宅訪問に伺っている方々、買物送迎をご利用になっている方々をリストアップし、電話をかけました。一人暮らしの高齢者で、お話し相手がいない方のところへ電話をして、とても喜ばれました。電話のスピーカーをONにして、スタッフみんなと話して大いに盛り上がりました。中には、買物送迎をご利用だった一人暮らしの高齢の男性に電話をしたら、体調を崩しておられ、民生委員さんに連絡して訪問してもらおうと、とても衰弱していたので、救急車を呼んで、すぐに入院させたという事もありました。電話番号が分からない方には手紙を出すことにしました。同居しているご家族への配慮をすると手紙の方がいい方もいらっしゃいました。手紙はスタッフが私製のはがきにパステルアートで季節の花などを描き、とても素敵な絵はがきになりました。手紙を受け取った方々から、感謝の電話や手紙をいただきました。

4月16日の緊急事態宣言を受けて、在宅勤務中に手作りのマスクを作りました。近隣や教会で配ってとても喜ばれました。



(左) 電話で安否確認

(左下) パステルアートの絵はがき

(右下) スタッフが在宅勤務中に仕上げた
たくさんの布マスク



乗車前に「お変わりありませんか」と体調確認、そして手の消毒

5月14日に宣言が解除され、活動を一部再開しました。そして6月から買物送迎を再開しました。以前のように週2回、車内が密になるのを防ぐために、定員7~8人の車に2人ずつ、2台の車を使って4人まで。前日までに電話で予約していただく「完全予約制」にしました。乗車前に体調を確認、必ずマスクを着用していただき、手をアルコール消毒、車の窓はできるだけ開けて走っています。ご利用者の皆さんはコロナ対策に快く応じてくださり、スムーズに活動できています。

サロン活動で使っていたお好み焼きの粉で、5月30日から3週続けて土曜日に、午前中にお好み焼きを焼いて、お昼までにお届けしました。84人分焼いて、約50世帯にお届けし、とても喜ばれました。地域の方や玄関先訪問でお会いする方々からサロン活動の再開を望む声が聞かれ、ベースや災害公営住宅でのサロンを一部再開し、久しぶりの再会を喜び合っています。その反面、集まるのはまだ早いだろうという声も聞かれます。新型コロナウイルス感染症の収束にはまだまだ時間がかかりそうです。その中で私たちスタッフは、東日本大震災で被災した方々のことを忘れず、ボランティアにきたいといってください全国の方々の思いを伝えながら、被災地の方々に寄り添い続けていきたいと思っています。



大船渡ベース名物のお好み焼き。温かいうちにお届けして喜んでいただきました

旬の贈り物

カリタス南三陸 千葉 道生

2月末から主にスタッフだけの活動が続いています。その間、私たちに何ができるのかスタッフミーティングだけではなく、皆でアイデアが泉のように湧いてくるように「スプリングタイム」という時間を設けました。いろいろなアイデアが出てきたのですが、一番面白かったのは「ステイホームで人と会えないのであれば伝書鳩はどう？」というアイデアでした。「鳩が届いたらきっと喜ぶでしょ！メールでも郵便でもなく便利でないからこそその良さがある」というので調べてみると費用や設備の大変さを思い知り、取りあえず心の片隅にしておくことに。

そんな中、現実的に私たちができることは、山里に囲まれている地域ならではの山菜（山ウド、タラの芽、コゴミ、ワラビなど）を収穫してお茶っこなどに参加できない南三陸の方たちにオリジナルの一筆箋にメッセージを書いてお届けしたり、外出して感染する心配をしている高齢者の方たちにベースで育てたお米をお届けしたりなど個別訪問を豊かにすることでした。玄関先での短い時間でしたが、皆さん、人と会話できることがとてもうれしいのだと感じました。不在の場合でもドアノブにぶら下げて帰ってくると、ベースにお礼の電話を掛けてくださる方も多く普段よりも会話が弾み、本当に多くの方が人との触れ合いを求めお茶っこの再開を楽しみにしていることが伝わってきました。

また森林組合さんに教えて頂いた「クロモジ」という植物についても調べてみるとお茶や入浴剤になるそうで「ステイホームに良いなあ」と思い、近隣の山でたくさん収穫してきました。漢方としても使用されており、山の木陰に行くと群生していました。茎に黒い斑点がある事から「黒文字」と名付けられたという説があるそうです。香りもよく山仕事の休憩時に茎をくわえてリラックスしています。天日乾燥して飲んでみたら「茎の方が飲みやすいかな」と思いましたが、どちらもお試しできるように袋詰めして個別訪問の時にお届けしています。そのような旬の贈り物に皆さん喜んでくださっています。



山の恵みをお届けしました

(左上) たくさんの山菜 (右上) メッセージを添えてお届けします

(左下) クロモジもたくさん収穫してきました (右下) クロモジ茶

田植え体験にくる予定だった幼稚園はキャンセルとなりましたが、私たちが出張し、「バケツに田植え体験」を行いました。稲の成長を見守るのも楽しみです。他には潮風トレイルの草刈りやモアイづくりなど、世の中のウイルスのニュースとは程遠い宮城の田舎で活動を行っています。だからこそ他の地域から人が入ってくることを恐れている方も少なからずいらっしゃいます。震災直後から「たくさんのボランティアさんたちのお蔭でここまで来ることができた」と実感している被災地の方たちにとっては複雑な心境です。

現在ボランティアさんの受け入れは7月から県内と感染者が少ない地域から公共交通機関を利用せず、車で来られる日帰りの方のみ再開しました。少しでも不安がある場合は心苦しいのですがお断りする場合もあります。今年は無農薬栽培の米作りに挑戦しているので草取り作業は早朝から週末も続き、休みはありませんが、おいしくて身体に良い物になるように愛情を込めて育てています。西日本が豪雨災害で大変な状況の中、時折来てくださる「ひとり」のボランティアさんの力を本当にすごいと感じています。

これからも与えられた環境に感謝し、ささやかでもできる事を続けていきたいと思っています。



バケツに田植え体験 大きくな～れ！



潮風トレイル

会いたかった！ 会いたかった！！

カリタス石巻ベース 濱山 麻子

カリタス石巻ベースでは、7月1日、4か月ぶりに1階のオープンスペースを再開しました。4か月ぶりに立てたのぼりを見て、パッとうれしそうな顔になって入ってきてくださった方、開館時間よりも早くにいそいそと来てくださった方。オープンスペースは、久しぶりの再会を喜ぶ皆さんの笑顔でいっぱいでした。

振り返れば2月末、新型コロナウイルスの感染が全国でじわじわと広がり、石巻ベースは3月から、オープンスペースと対面での戸別訪問を休止しました。予定していたイベントはすべて中止。活動の申し込みをしてくださっていた全国のボランティアさんにも、泣く泣くお断りの連絡をせざるを得ませんでした。テレビをつければ「密集・密接・密閉の『3密』を防ぐ」という言葉が飛び交う中、「集まって、人と関わること」が私たちの活動そのものであったことに気づかされました。いったい、この状況で何ができるのだろうか。いつも来てくださっていた方々、一人暮らしのあの方はどうなるだろう。自分や家族が感染したらどうしよう。さまざまな不安に取り込まれてしまいそうでした。



黙々と手作業に取り組む

しんと静まったベースで、スタッフたちは、「こんな時だからできることをしよう」と、まずはベース内の大掃除を始めました。次に、手芸用にと保管してあった布をかき集めて、マスク作り。4月の時点で、七夕飾りを作り始めたスタッフもいました。とにかく何かしないと、とがむしゃらになっていたように思います。

これまで培ってきたつながりを途切れさせたくない、という思いから、電話番号を知っている方には電話で「お元気ですか」と安否確認を始めました。戸別訪問は、対面ではなく、手書きのカードとマスクや小さな手芸品などをポストにお届けする形で、細々と続けました。訪問後には、何人かの方からお礼の電話があります。電話の向こうの「カリタスに行かないと暇でしょうがないよ。いつ開けるの?」「なんだい、せっかく来たんだったらあがってお茶ぐらい飲んでいったらいいっちゃ」という声を聞くと、直接会えない歯がゆさも感じました。

ボランティアの受け入れ再開のめどが立たない中、これまでずっと関わってくださっていたボランティアさんたちのことも気になり始めました。あるボランティアさんに連絡してみると、「ミサもないので、家にこもりきりです」というお返事がありました。戸別訪問先へ届けるカードと手芸品の準備をしながら、「ベースに来なくても、これならみんなでできる」とひらめき、全国のボランティアさんに向けて、戸別訪問用の手作りの贈り物と、メッセージの募集を呼び掛けました。手のぬくもりが感じられる小さな贈り物、顔が浮かぶようなメッセージは、きっと受け取った人の心を和ませ、贈る側も「誰かのために」という気持ちで物を作る、手紙を書くことで心に張り合いが生まれるに違いない、という思いがありました。呼びかけを始めると、

全国から続々と反応がかえってきました。リピーターのボランティアさんだけでなく、後方支援部隊として応援してくださっていた方や、これまでボランティアに参加したことがない方からも、「こんな時だから、自分にも何かできたらと思います」と丁寧なメッセージや手芸品が送られてきました。匿名で送ってくださった方もいらっしゃるのので、この場を借りて御礼を申し上げます。お届けすると、皆さん、ボランティアさんのことを思い出して「元気してるかなと思ってだった」とおっしゃいます。「丁寧に作ってあることが分かるよ、うれしいね」と喜ぶ声も聞こえます。



7月から対面での戸別訪問も再開しました

久しぶりの再会、おみやげを手に笑顔でパチリ！

宮城県内では6月には新規感染者がしばらく出ない状態が続いたので、7月から週に一度、オープンスペースを再開しました。電話や手紙でつながっていたとはいえ、直接お会いすると、私たちスタッフもうれしくてたまりませんでした。「ここが閉まっている間、ずっと家にいて何もする気が起きなかったの」という声を聞くと、人に囲まれておしゃべりをするのが、どれだけ心の支えになることかと思えます。

全国的に再び感染が拡大する中、また休止という状況もあるかもしれませんが、ささやかな集いの場を開くこと、そしてたくさんの人とのつながりの中で活動できる喜びを感じながら、一日一日の活動を大事にしていきたいと思っています。



3密を避けて、おしゃべりがはずむ貴重なひと時



4か月ぶりにのぼりが立った！